

平成26年度 英語力調査結果（高校3年生）の速報（概要）

調査の目的・対象

- 第2期教育振興基本計画（平成25～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、外部試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。また、成果指標として、高3生の英語力の目標を設定（卒業時に英検準2～2級程度以上）。
- 全国の高校3年生約7万人（国公立約480校）を対象に、英語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から、生徒の英語力を測るとともに、英語の学習状況を把握・分析。（ただし、「話すこと」は1校あたり1クラス40人程度を対象）
（試験実施時期：平成26年7月～9月）
- 調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

〈調査の特徴〉

- ※平成26年度は旧学習指導要領で学んだ高3生を対象とした調査。平成27年度は新学習指導要領で学んだ生徒の調査を実施し、経年比較を行う予定。
- ※高校生の英語力を幅広く測定するため、生徒の一定の学習達成度ではなく、世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1からB2までのレベルを測定できるように設計。（別紙参照）
- ※国による全国無作為抽出で行う大規模な4技能型試験の初めてのフィージビリティ調査。

調査結果における「課題」と今後の「改善の方向性」

4技能の全てにおいて課題があるとともに、特に「話すこと」「書くこと」について課題が大きい。

【英語学習に対する生徒の意識】

〈課題〉

- 英語の学習が好きではないとの回答が半数以上。
- 将来の生活において英語を活用するイメージを持つ生徒は少ない。
- 一方で、4技能とも試験結果が高いほど「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」「大学で専攻する学問を英語で学べるようになりたい」と回答した生徒が多い。

〈改善の方向性〉

⇒生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲や態度の育成を含めた具体的な指標形式の目標の設定、総合的なコミュニケーション能力を育成するための言語活動及び多面的な評価方法の在り方を検討し、改善することが必要。

【4技能を活用した言語活動に対する生徒の意識】

〈課題〉

- 英語を用いて「生徒同士で話し合う、意見交換を行う」ことや、「スピーチやプレゼンテーション」をした経験が少ない。
- 一方で、「話すこと」の試験結果が高いほど、「生徒同士で英語で話し合う、意見交換、スピーチ、プレゼンテーションをしていると思う」生徒の比率が高い。

〈改善の方向性〉

⇒英語の基礎的な知識・技術を活用し、生徒の興味・関心が高い話題や、時事問題や社会的な話題などについて「発表・討論・交渉」などを行う言語活動を豊富に体験させ、情報や考えなどを的確に理解するとともに適切に伝えられる総合的なコミュニケーション能力を高めることが必要。

生徒全体の英語力の傾向

- 「読むこと」「聞くこと」は、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）A1上位からA2下位レベルに集中。
- 「書くこと」の得点者は全体の約70%（無回答：29.2%）、「話すこと」の得点者は全体の約85%（無回答：13.3%）となっており、課題が大きい。

【生徒全体のスコア分布】

<読むこと> 43問（約45分）				<聞くこと> 36問（約25分）				<書くこと> 2問（約25分）				<話すこと> 3問（対面約10分）				
CEFR	得点	Reading	割合	CEFR	得点	Listening	割合	CEFR	得点	Writing	割合	CEFR	得点	Speaking	割合	
B2	320	77	0.2%	B2	320	175	0.3%	B2	140	2	0.0%	B1	14	274	1.7%	
	310	18			310	50			135	0			13	272		
	300	27			300	70			130	3			12	415		
B1	290	37	2.0%	B1	290	68	2.0%	B1	125	7	0.7%	A2	11	501	11.1%	
	280	69			280	109			120	33			10	657		
	270	82			270	126			115	45			9	691		
	260	107			260	160			110	175			8	770		
	250	157			250	227			105	222		7	946			
	240	195			240	256			100	578		6	1185			
	230	317			230	341			95	608		5	1632			
	220	420			220	454			90	1,183		4	1105			
A2	210	561	25.1%	A2	210	615	21.8%	A2	85	946	12.8%	A1	3	1648	87.2%	
	200	778			200	748			80	1,804			2	1450		
	190	1,124			190	992			75	1,736			1	2827		
	180	1,477			180	1,241			70	1,971			0	2,210		
	170	1,956			170	1,731			65	1,816			平均	4.5		
	160	2,610			160	2,199			60	2,347			調査対象	16,583		
	150	3,545			150	2,996			55	1,978			0点	2,210		13.3%
	140	5,245			140	4,034			50	2,516						
A1	130	8,192	72.7%	A1	130	5,438	75.9%	A1	45	2,111	86.5%					
	120	11,790			120	7,684			40	2,417						
	110	12,508			110	8,831			35	1,988						
	100	9,796			100	9,026			30	2,497						
	90	4,698			90	7,840			25	2,080						
	80	1,823			80	5,782			20	2,258						
	70	604			70	3,474			15	2,167						
	60	208			60	2,125			10	2,562						
	50	76			50	920			5	2,913						
	40	51			40	396			0	30,089						
	30	19			30	189			平均	27.2						
	20	2			20	106			調査対象	69,052						
	10	0			10	99			0点	20,139		29.2%				
	0	285			0	352										
平均	129.4	平均	120.3													
調査対象	68,854	調査対象	68,854													

※CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力評価のために、透明性が高く分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等・中等教育を通じた目標として適用されたり、言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりしている。本調査では、便宜上A1～B2レベルまでを得点帯刻みに設定し分布を把握。（別紙参照）

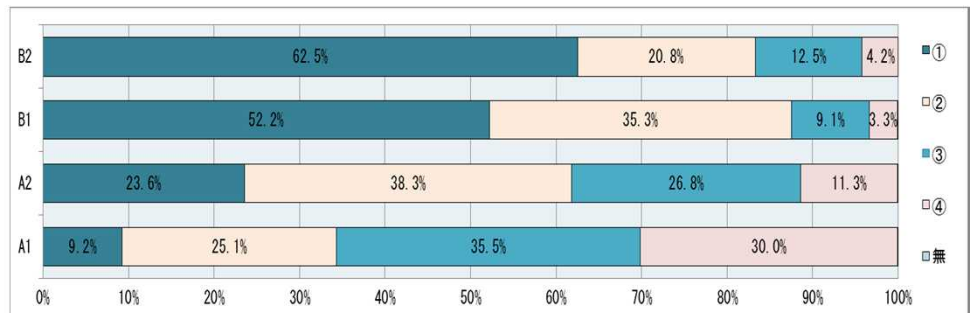
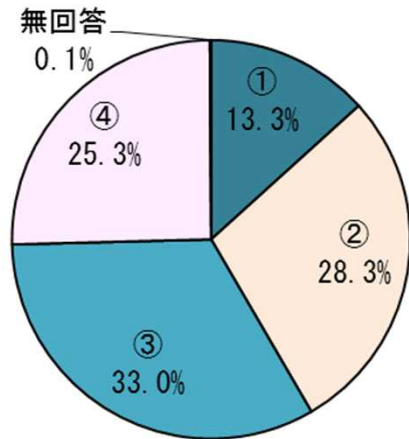
英語学習に対する生徒の意識

生徒の英語学習に対する意識

- 英語が好きではない（選択肢③④）との回答が半数を上回る。特にA1レベルにおいて顕著（公立）。

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※「読むこと」の試験結果とのクロス。他の技能についても同様の傾向がみられる。

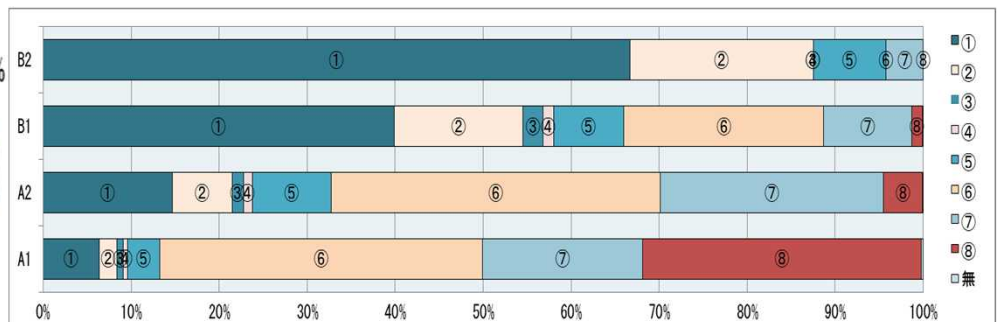
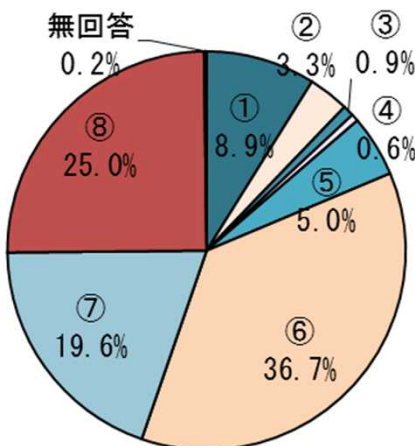
現在の英語力と将来の英語使用のイメージ

- 現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる（公立）。

「英語をどの程度身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、B2、B1など試験結果が高いほど、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「大学で自分が専攻する学問を学べるようになりたい」（選択肢②）といった回答が多い。

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

- ① 英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい ② 大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
 ③ 高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
 ④ 高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
 ⑤ 海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
 ⑥ 海外旅行などをすると、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
 ⑦ 大学入試に対応できる力をつけたい ⑧ 特に学校の授業以外での利用を考えていない



※「読むこと」の試験結果とのクロス。他の技能についても同様の傾向がみられる。

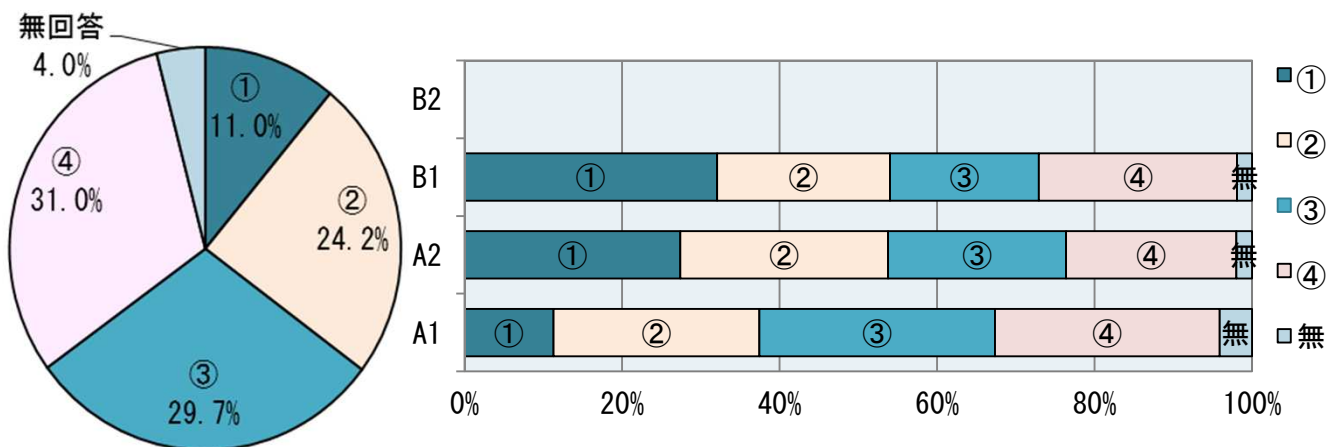
4 技能を通じた言語活動に対する意識

4 技能を通じた言語活動に対する生徒の意識

- 聞いたり読んだりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をした経験が少ない。
- 「話すこと」の試験結果が高いほど、授業において「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」（選択肢①②）生徒の比率が高い（公立）。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



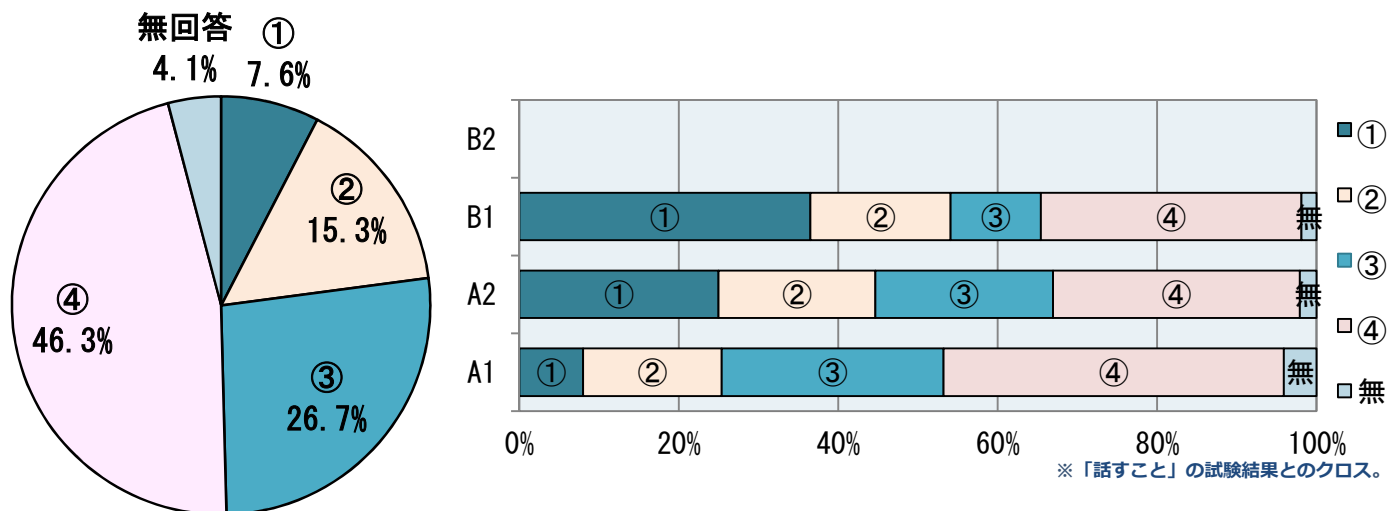
※「話すこと」の試験結果とのクロス。

4 技能を通じた言語活動に関する生徒の取組状況

- 英語でスピーチやプレゼンテーションをした経験が少ない。
- 「話すこと」の試験結果が高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」生徒（選択肢①②）の比率が高い（公立）

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※「話すこと」の試験結果とのクロス。

(別紙)

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)			8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400	7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>

http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS Webサイトに近日公開予定

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より

TOEIC：IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>
[L&R]または[S&W]の記載が無い数値が4技能の合計点

※各団体の公表資料より文部科学省において作成

(参考) 調査問題の構成

- 「読むこと」: 多肢選択式・3パート構成・43問(約45分)
 - 「聞くこと」: 多肢選択式・2パート構成・36問(約25分)
 - 「書くこと」: 自由記述式・2パート構成・2問(約25分)
 - 「話すこと」: 音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述について評価基準を設け、教員が面接を実施(約10分)
- 計
約2時間

約10分

[試験問題の構成]

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 (「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力)			
問題構成	語彙・語法問題 14問 (短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力) ※A2～B1相当	課題解決問題 18問 (日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報(イラスト)と音声情報から、その場で求められている課題(タスク)を解決する力) ※A2相当	情報要約問題 1問 (英文音声で聞いた情報を理解し、指定語数(30語程度)で要約して書く力) ※B1～B2相当	音読問題 1問 (適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさと話す力) ※A1～B2相当
	概要把握問題 6問 (与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力) ※A2～B1相当	要点理解問題 18問 (英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力) ※A2～B2相当	意見展開問題 1問 (与えられた話題について、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力) ※A2～B2相当	質疑応答問題 1問 (試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力) ※A1～B2相当
	情報検索問題 8問 (与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力) ※A2相当			意見陳述問題 1問 (与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力) ※A1～B2相当
	要点理解問題 15問 (まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力) ※B2相当			

[生徒・学校・教員に対する質問紙調査の構成(15分)]

項目	内容
生徒質問紙	○英語そのものに関する意識(関心、英語を身に付けて何をしたいかなど) ○英語使用に関する経験(スピーチ大会、プレゼンテーション、留学など) ○英語に関する資格・検定試験の受験経験 ○英語の学習方法・内容や学習時間 ○授業における4技能活用状況 ○英語CAN-DOアンケート など
教員質問紙	○教員の指導状況について(スピーチ、プレゼン、ディスカッション、研修への参加状況、自己学習の状況)
学校質問紙	○学校組織での指導体制などについて(模擬授業など研修実施等)

◆ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

基本施策16 外国語教育, 双方向の留学生交流・国際交流, 大学等の国際化など, グローバル人材育成に向けた取組の強化

【基本的考え方】

- グローバル化が加速する中で, 日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提として, 豊かな語学力・コミュニケーション能力, 主体性・積極性, 異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野で活躍できるグローバル人材の育成が重要である。
- このため, 「社会を生き抜く力」の確実な養成を前提とし, **英語をはじめとする外国語教育の強化**, 高校生・大学生等の留学生交流・国際交流の推進, 大学等の国際化のための取組(秋季入学に向けた環境整備, 海外大学との国際的な教育連携等)への支援, 国際的な高等教育の質保証(単位の相互認定, 適切な成績評価等)の体制や基盤の強化等を実施するとともに, 意欲と能力ある全ての日本の若者に, 留学機会を実現させる。

【主な取組】

16-1 英語をはじめとする外国語教育の強化

- ・新学習指導要領の着実な実施を促進するため, 外国語教育の教材整備, 英語教育に関する優れた取組を行う拠点校の形成, **外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる, 戦略的な英語教育改善の取組の支援**を行う。また, 英語教育ポータルサイトや映像教材による情報提供を行い, 生徒の英語学習へのモチベーション向上や英語を使う機会の拡充を目指す。
- ・また, 小学校における英語教育実施学年の早期化, 指導時間増, 教科化, 指導体制の在り方等や, 中学校における英語による英語授業の実施について, 検討を開始し, 逐次必要な見直しを行う。
- ・教員の指導力・英語力の向上を図るため, 採用や自己研鑽等での外部検定試験の活用を促すとともに, 海外派遣を含めた教員研修等を実施する。

◆ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

成果目標5(社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成)

「社会を生き抜く力」に加えて, 卓越した能力※を備え, 社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材, 社会の各分野を牽引するリーダー, グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材, とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて, 実践的な英語力をはじめとする語学力の向上, 海外留学者数の飛躍的な増加, 世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

(※能力の例:国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性, チャレンジ精神, 異文化理解, 日本人としてのアイデンティティ, 創造性など)

【成果指標】

<グローバル人材関係>

①国際共通語としての英語力の向上

- ・**学習指導要領に基づき達成される英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上, 高等学校卒業段階:英検準2級程度~2級程度以上)を達成した中高校生の割合50%**
- ②英語教員に求められる英語力の目標(英検準1級, TOEFL iBT80点, TOEIC730点程度以上)を達成した英語教員の割合(中学校:50%, 高等学校:75%)

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画

初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。

2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、本計画に基づき体制整備等を含め2014年度から逐次改革を推進する。

1. グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

○小学校中学年：活動型・週1～2コマ程度

- ・コミュニケーション能力の素地を養う
- ・学級担任を中心に指導

○小学校高学年：教科型・週3コマ程度

(「モジュール授業」も活用)

- ・初歩的な英語の運用能力を養う
- ・英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的活用

- ※小・中・高を通じて一貫した学習到達目標を設定することにより、英語によるコミュニケーション能力を確実に養う
- ※日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実(伝統文化・歴史の重視等)

○中学校

- ・身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う
- ・授業を英語で行うことを基本とする

○高等学校

- ・幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、英語話者とある程度流暢にやりとりができる能力を養う
- ・授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化(発表、討論、交渉等)

2. 新たな英語教育の在り方実現のための体制整備(平成26年度から強力に推進)

○小学校における指導体制強化

- ・小学校英語教育推進リーダーの加配措置・養成研修
- ・専科教員の指導力向上
- ・小学校学級担任の英語指導力向上
- ・研修用映像教材等の開発・提供
- ・教員養成課程・採用の改善充実

○中・高等学校における指導体制強化

- ・中・高等学校英語教育推進リーダーの養成
- ・中・高等学校英語科教員の指導力向上
- ・外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証
- ※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT 80点程度等以上の英語力を確保

○外部人材の活用促進

- ・外国語指導助手(ALT)の配置拡大、地域人材等の活用促進(ガイドラインの策定等)
- ・ALT等向けの研修強化・充実

○指導用教材の開発

- ・先行実施のための教材整備
- ・モジュール指導用ICT教材の開発・整備

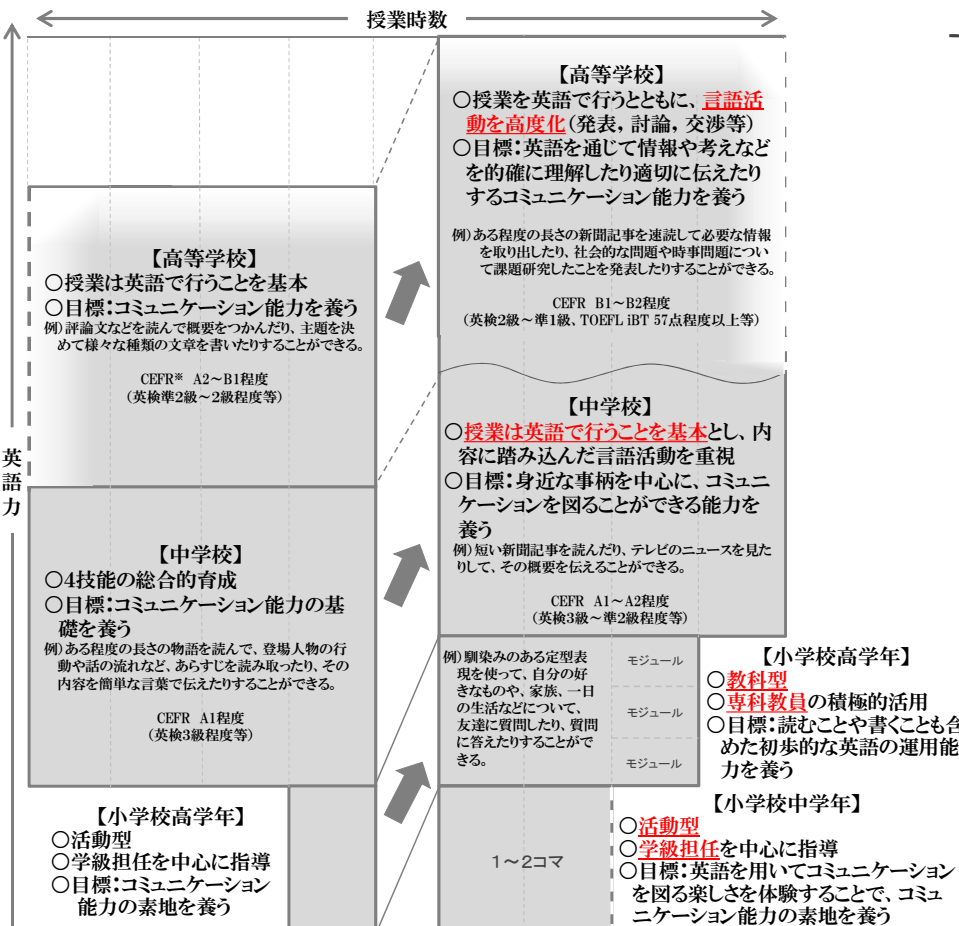
小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上(高校卒業段階で英検2級～準1級、TOEFL iBT57点程度以上等)

→外部検定試験を活用して生徒の英語力を検証するとともに、大学入試においても4技能を測定可能な英検、TOEFL等の資格・検定試験等の活用の普及・拡大

3. スケジュール(イメージ)

- 2014年1月頃 有識者会議設置
- 2014～2018年度 指導体制の整備、英語教育強化地域拠点事業・教育課程特例校による先取り実施の拡大
- 中央教育審議会での検討を経て学習指導要領を改訂し、2018年度から段階的に先行実施
- 東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて2020年度から全面实施

1. グローバル化に対応した新たな英語教育の目標・内容等(案)



○小・中・高等学校を通じて目標・取り扱う内容・評価を改善

- ・「英語を用いて何ができるようになるか」という観点から目標を具体化し、小中高を通じて一貫した学習到達目標を設定
- ・言語活動の内容(聞き取り、多読、速読、作文、発表、討論等)や量を増加
- ・「英語を用いて～することができる」という形式による目標設定(CAN-DOリスト)に対応する形で4技能を評価
- ・我が国や郷土の伝統や文化について英語で伝えるという視点も含める

○生徒の英語力の検証

- ・外部検定試験を活用し、各学校段階における生徒の客観的英語力を検証するとともに、指導改善に活用
- ・大学入試においても4技能を測定可能な英検、TOEFL等の資格・検定試験等の活用の普及・拡大

※日本文化の発信等やアイデンティティに関する教育の強化

- 東京オリンピック・パラリンピックに向け、児童生徒の英語による日本文化の発信、国際交流・ボランティア活動等の取組を強化
- 日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実(伝統文化・歴史の重視等)

現行の学習指導要領による英語教育

新たな英語教育

★上記の目標は、各学校卒業段階で達成されるべき英語力であり、例えば、新たな英語教育において、高等学校であれば卒業段階で英検2級～準1級程度が達成目標となる。

※CEFR(外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠)では、「共通参照レベル」として、言語能力をA1、A2レベル(基礎段階の言語使用者)、B1、B2(自立した言語使用者)、C1、C2(熟達した言語使用者)の6段階に分け、「読むこと」、「聞くこと」、「やりとり」、「表現」、「書くこと」の5つの能力カテゴリーに分けて言語活動の内容を表している

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告(抜粋)
(平成26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議)

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。これまでに設定されている英語力の目標だけでなく、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。